

旅の巻



総会が終了した後、主催国から市内観光を招待してくれました。ヤンゴン市中心の『聖なる黄金の塔（Shwedagon Pagoda）』は欠かせない観光名所の一つです。仏教の聖地のミャンマに来ましたら、みんなも心を清めたいな感じをします。

ここまで書きましたら、ある人物を紹介しなければなりません。それは大変なお世話になりましたミャンマの Su Su Hliang さんです。彼女も大会のボランティアスタッフとして参加していました。長い黒髪で、背が高くほっそりとした彼女はとても綺麗で、優しい方です。

フライト・スケジュールのため、一部のマレーシア団員は大会の後、一日観光の時間を儲けました。私たち自分でアウンサンマーケットへショッピングしますと聞きました Su Su Hliang さんは、自らガイドさんになりますと言いました。言葉の通じないミャンマではもちろん彼女の提案に大歓迎でありがたく思います。朝から夕方までへとへとになってこのショッピング狂の私たちに付き合ってくれました。しかも、タクシーをひろって、私たちがちゃんと無事にホテル着くまで確認するほどの彼女の熱情にとっても感動しました。

Su Su Hliang さん、ありがとうございました。

食堂の巻



アウンサンマーケットで買い物をする時、Su Su Hliang さんが通訳と値引きまでしてくれましたお蔭様で、私たちの買い物が大成功でした。

昼頃、Su Su Hliang さんがアウンサンマーケット中の食堂へお昼を連れてくれました。食堂に入った途端、各屋台の人から蠅がはちみつを見つけましたように私たちを囲んでしまい、大声しかも早口で私たちがチンプンカンプンのミャンマ語で何かをしゃべっていました。多分各自の売っているメニューを紹介していると思います。いきなり大群の人に囲まれて、うるさくて、どう反応すればよいか分からない私たち、ただ呆然として立っているだけなのです。優しい Su Su Hliang さんも一人ですので、誰に返事すればいいか分からないようです。適当に席に着いて、Su Su Hliang さんがある屋台へ食べ物注文しました後、蠅のように囲んでいた各屋台の人がやっと静かになって

くれました。それぞれ自分の屋台に戻り、なにもないよう優雅にうちわを扇ぎ、また隣の人と井戸端会議を始めました。まわりの変化があまりにも極端的に速いので、私たちがまた驚きの中から回復しないまま、依然ぼっとしていました。静返った周りがとても不思議で奇妙な体験でした。

各会員国が二年ごとの順で主催する ASCOJA 総会は、2011年の開催国がタイと決められました。二年後はタイでの再会を楽しみにしています。またタイという国の新しい体験と一緒にしていただきたいと思います。

周素蓮より